

# 現代中国語の二重目的語構文とヴォイス構文 における「授与」と「取得」\*

加 藤 宏 紀

本稿はまず現代中国語の二重目的語構文（“他送我一本书”，“他收了我五块钱”）と「使役」を表す“叫”，「処置」を表す“把”，「受身」を表す“被”によって構成されるいわゆるヴォイス構文（“妈妈叫孩子去买菜”，“妈妈把衣服洗干净”，“他被小王打了”）に共通する形式的特徴を述語論理表記や語彙機能文法を援用することで明示する。その後，両構文が「授与」と「取得」という共通の意味的基盤の上に一種の相似関係を形成していることを論じる。

キーワード：二重目的語構文、ヴォイス構文、「授与・取得」、「使役・処置・受身」、述語論理

## 1. 現代中国語の二重目的語構文の意味と形式

朱德熙 (1980) および朱德熙 (1982) が指摘したように，現代中国語において，二重目的語構文を特徴づける意味は「授与」と「取得」の二つである。(1a)–(1d) の動詞“送（プレゼントする）”，“还（返す）”，“递（渡す）”，“卖（売る）”は「授与」を表し，それぞれ二重目的語構文を構成している。

- (1) a. 他送我一本书。（彼は私に本を一冊プレゼントする。）  
（朱德熙 1980）  
b. 他还我五块钱。（彼は私に五元返す。）（同上）  
c. 他递我一枝笔。（彼は私にペンを一本渡す。）（同上）  
d. 他卖我一所房子。（彼は私に家を一軒売る。）（同上）

次の (2a)–(2d) は「取得」を表す二重目的語構文である。(2a)–(2d) で下

線を施した動詞“收（受け取る）”、“偷（盗む）”、“抢（奪う）”、“买（買う）”にはどれも「取得」の意味が含まれている。

- (2) a. 他收了我五块钱。（彼は私から五元受け取った。）  
 （朱德熙 1980）  
 b. 他偷了人家一把斧子。（彼はひとさまから斧を一本盗んだ。）  
 （同上）  
 c. 他抢了我一张邮票。（彼は私から切手を一枚横取りした。）  
 （同上）  
 d. 我买了他家一所房子。（彼は私から家を一軒買った。） （同上）

「授与」義であれ「取得」義であれ、中国語の二重目的語構文は述語動詞の前に主語となる名詞句、述語動詞の後の近い位置には間接目的語の名詞句、遠い位置には直接目的語を表す名詞句を伴って構成されている。そこで、二重目的語構文を次の (3) のように一般化する。「NP<sub>[A]</sub>」は主語、「D」は動詞述語、「NP<sub>[B]</sub>」は間接目的語、「NP<sub>[C]</sub>」は直接目的語を表す。

- (3) 二重目的語構文の一般式  
 NP<sub>[A]</sub>      D      NP<sub>[B]</sub>      NP<sub>[C]</sub>

## 2. 現代中国語のヴォイス構文の意味と形式

現代中国語では、“叫”、“把”、“被”を用いて構成される文は、その形式および意味的特徴から、一般の動詞によって構成される文とは区別され、それぞれ独自の構文として扱われる。そしてこれらの構文は決してそれぞれ独立して存在しているのではなく、一定の形式的共通性や意味的関連性があることは、これらの構文間の変換分析研究からも明らかである。木村英樹 (2000) は、これらの構文が形式的特徴を共有し、異なる意味を表しつつも相補的なつながりを持って、ある種のヴォイス・カテゴリを形成していると指摘した<sup>1</sup>。本稿では“叫”、“把”、“被”およびそれらによって形成される文は同じグループに属するという立場から論を進める。よって、“叫”、“把”、“被”を「ヴォイス・マーカ」、そしてそれらが構成する文を「ヴォイス構文」と呼ぶ。“叫”は「指示によってしむける」ことを表す「使役」文、“把”は「動作対象に何らかの処置をもたらす」こと

を表す「処置」文，“被”は「受け手に被害・迷惑・影響を与える」ことを表す「受身」文をそれぞれ構成する。

- (4)a. 妈妈叫孩子去买菜。(母は子供に買い物に行かせる。)  
 b. 妈妈把衣服都洗干净了。(母は服をきれいに洗った。)  
 c. 他被小王打了。(彼は王さんにぶたれた。)

上の (4a)–(4c) の各例では統語上、構成要素として名詞句を二つ、動詞句を一つ伴うという共通点がある<sup>2</sup>。(4a) の名詞句は“妈妈 (母)”と“孩子 (子供)”であり、動詞句は“去买菜 (買い物に行く)”である。(4b) では“妈妈”と“衣服 (服)”が名詞句、“洗干净 (きれいに洗う)”が動詞句である。(4c) では“他 (彼)”と“小王 (王さん)”が名詞句、“打 (たたく)”が動詞句である。そこで、ヴォイス構文を次の (5) のように一般化する。「NP<sub>[x]</sub>」は主語、「V」はヴォイス・マーカー、「NP<sub>[y]</sub>」は目的語、「VP<sub>[z]</sub>」は述語 (動詞句) 部分を表す。

- (5) ヴォイス構文の一般式  
 NP<sub>[x]</sub>          V          NP<sub>[y]</sub>          VP<sub>[z]</sub>

### 3. 三項関数としての二重目的語動詞とヴォイス・マーカー

上述したように、現代中国語において、二重目的語構文は述語動詞が三つの名詞句を伴って構成され、ヴォイス構文はヴォイス・マーカーのほか二つの名詞句と一つの動詞句によって構成されていることが観察される。本章では述語論理式による記述法および「語彙機能文法 (Lexical Functional Grammar 以下 LFG)」の枠組みを採用した日本語の「使役」や「受身」の意味記述法を援用し、この二種類の構文が三項関数からなる同一グループの構文であることを検証する。

#### 3.1 二重目的語構文の検証

上の (3) で一般化されたように、現代中国語の二重目的語構文は、形式上、主語のほかに二つの目的語を伴う。つまり、二重目的語構文で述語になる動詞は三つの個体の間に成り立つ関係を表す。述語論理では、三つの個体の間に成り立つ関係は「三項関数」によって記述される<sup>3</sup>。よって、(1a)–(1d) および (2a)–(2d) の二重目的語構文は述語論理を用いて次の

(6a')-(6d') および (7a')-(7d') のように記述される。(6a') と (7a') を例に論理式の読み方を説明する。式は大きく丸括弧の左側の「関数 (functions)」と丸括弧内の「引数 (ひきすう, arguments)」の部分によって構成される。つまり「送」や「收」は関数で、それぞれその右にある丸括弧内に三つの引数を取っている。丸括弧内の引数はカンマで区切られ、左から順に第一引数、第二引数、第三引数と呼び、順序づけられている。(6a') の第一引数「他」は「与える者」、第二引数「我」は「受け取る者」、第三引数「一本书」は「与える事物」である。一方、(7a') の第一引数「他」は「得る者」、第二引数「我」は「失う者」、第三引数「五块钱」は「得る事物」である<sup>1</sup>。

- (6) a. 他送我一本书。((1a) 再掲)  
       a'. 送' (他', 我', 一本书')  
       b. 他还我五块钱。((1b) 再掲)  
       b'. 还' (他', 我', 五块钱')  
       c. 他递我一枝笔。((1c) 再掲)  
       c'. 递' (他', 我', 一枝笔')  
       d. 他卖我所房子。((1d) 再掲)  
       d'. 卖' (他', 我', 一所房子')
- (7) a. 他收了我五块钱。((2a) 再掲)  
       a'. 收' (他', 我', 五块钱')  
       b. 他偷了人家一把斧子。((2b) 再掲)  
       b'. 偷' (他', 人家', 一把斧子')  
       c. 他抢了我一张邮票。((2c) 再掲)  
       c'. 抢' (他', 我', 一张邮票')  
       d. 我买了他家一所房子。((2d) 再掲)  
       d'. 买' (我', 他家', 一所房子')

### 3.2 ヴォイス構文の検証

次に、ヴォイス・マーカーが三項関数であることを検証する。(5) に一般化したように、ヴォイス構文は  $NP_{[x]}$  が表す主語、 $NP_{[y]}$  が表す目的語、 $VP_{[z]}$  が表す述語（動詞句）の三つの部分を備えている。このような形式上の特徴は、ヴォイス構文において、ヴォイス・マーカーが三項関数であ

ると解釈する可能性を示唆している。この解釈で重要なことは、述語部分 (VP<sub>[z]</sub>) がヴォイス構文の第三引数に埋め込まれた文 (命題) だということである。

### 3.2.1 三項関数としての日本語の「させる」と「られる」

郡司隆男 (1987) は LFG の枠組みの中で、日本語の「使役」を表す「させる」と「被害の受身」を表す「られる」という形態素を三項関数として扱っている。それらの意味を記述する際、主語や目的語に相当する引数のほか、XCOMP という主語を持たない VP 補語を第三の引数として埋め込んで処理することを提唱している。郡司隆男 (1987) の LFG の枠組みで、「使役」を表す「させる」と「受身」を表す「られる」の意味がどのように記述されているか見てみよう。次の (8a) は「させる」を用いた使役文で、(8b) はその文の意味を記述した「f-構造 (f-structure)」である。「させる」の意味は (8b) で下線部で表されている。「させる」の右側にある「<>」で囲まれた「(↑SUBJ)」、「(↑OBJ2)」、「(↑XCOMP)」の三つが述語「させる」によって下位範疇化される引数である。(8b)において、「(↑SUBJ)」は「あそこの狸」という個体、「(↑OBJ2)」は「ここの狐」という個体、「(↑XCOMP)」は「(ここの狐が) 人間を騙す」という命題 (主語を持たない VP 補語) にそれぞれ対応する。

(8)a. あそこの狸がここの狐に人間を騙させた。(郡司隆男 1987: 107)

b. LFG における「させる」の意味記述 (郡司隆男 1987: 107)

SUBJ	[	SPEC	'あそこの'	]
		PRED	'狸'	]
OBJ2	[	SPEC	'ここの'	]
		PRED	'狐'	]
OBJ	[	PRED	'人間'	]
XCOMP	SUBJ	[		]
	OBJ	[		]
		PRED	'騙す <(↑SUBJ)(↑OBJ)>'	
PRED	'させる <(↑SUBJ)(↑OBJ2)(↑XCOMP)(↑OBJ)'			
TENSE	PAST			

次の (9a) は「られる」を用いた被害の受身文で、(9b) はその f-構造で



- (11) a. 妈妈把衣服都洗干净了。  
 b. 把' (妈妈', 衣服', 洗' (妈妈', 衣服') & 干净' (衣服'))

(12a) は「受身」のヴォイス構文である。全体で「他」( $NP_{[x]}$ ) は“小王”( $NP_{[y]}$ ) から“(小王) 打了 (他)”( $VP_{[z]}$ ) をされる (蒙る)」ということを表す。(12b) は (12a) の受身文を述語論理で表記したものである。下線部は関数「被」の第三引数である埋め込まれた命題部分で, (12a) の“(小王) 打了 (他)”の意味に相当する。

- (12) a. 他被小王打了。  
 b. 被' (他', 小王', 打' (小王', 他'))

#### 4. 「授与」と「取得」に見る両構文の意味上の相似

これまでの考察で, 現代中国語の二重目的語構文とヴォイス構文には形式上の共通点があることが検証された。本章ではこうした形式上の共通性の基礎となる「授与」と「取得」という意味的要因に由来していることを論証する。

##### 4.1 二重目的語構文の意味構造

まず, 二重目的語構文の意味構造を確認しよう。朱德熙 (1980) はこの「授与」の意味を次のように分析した。

- (13) 「授与」の意味 (朱德熙 1980: 153) :
- (i) 「与える者 (A)」と「受け取る者 (B)」が存在する。
  - (ii) 「与える者」が与える, すなわち「受け取る者」が受け取る, 事物 (C) が存在する。
  - (iii) A は主体的に C を A から B へと移動させる。

すなわち, 上の (1a) の例文で言えば, 「与える者 (A)」は主語“他” ( $=NP_{[A]}$ ), 「受け取る者 (B)」は間接目的語“我” ( $=NP_{[B]}$ ), 「事物 (C)」は直接目的語“一本书” ( $=NP_{[C]}$ ) である。そして, “送”という行為によって, “一本书” (C) は“他” (A) から“我” (B) へ移動している。(1b)–(1d) も同様に, 動詞述語が表す行為によって, 事物 C が主語 A から間接目的語 B へと移動している。朱德熙 (1980) は「授与」の意味を持つ動詞を, 文の

線形順序における、「右移動の動詞」と呼んだ（朱德熙 1980: 153）。そこで「授与」が表す事物の移動過程を次のように図示する。

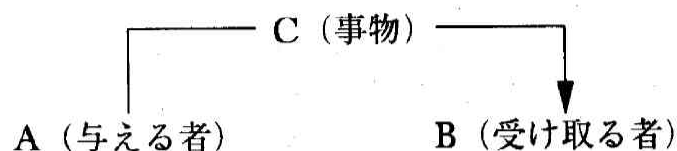


図1

一方、朱德熙(1980)はこの「取得」の意味を次のように記述した。

(14) 「取得」の意味（朱德熙 1980: 154）：

- (i) 「得る者(A')」と「失う者(B')」の両方が存在する。
- (ii) 「得る者」が得る，すなわち「失う者」が失う，事物(C')が存在する。
- (iii) A'は主体的にC'をB'からA'へ移動させる。

(2a) を例にとれば，「得る者(A')」は主語「他」(=NP<sub>[A]</sub>)，「失う者(B')」は間接目的語「我」(=NP<sub>[B]</sub>)，「事物(C')」は直接目的語「五块钱」(=NP<sub>[C]</sub>)である。そして，「收」という行為によって，「五块钱」(C')は「我」(B')から「他」(A')へ移動している。(2b)–(2d)も同様に，動詞述語が表す行為によって，事物C'がB'からA'へ移動している。朱德熙(1980)は「取得」の意味を表す動詞を，文の線形順序における，「左移動の動詞」と呼んだ（朱德熙 1980: 155）。「取得」が表す事物の移動過程は次の図2のように示すことができる。

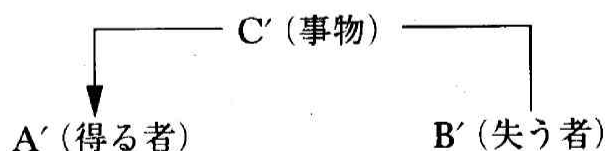


図2

#### 4.2 ヴォイス構文の意味構造

ヴォイス構文が表す「使役」，「処置」，「受身」の三項関係をそれぞれの例文をもとに考察する。まず，「叫（让）」が表す「使役」について考えよ

う。「使役」は「誰かが誰かに（指示して）ある行為をするようにしむける」という意味を表す「使役者 (X)」, 「遂行者 (Y)」, 「行為 (Z)」の間の三項関係であると言える。(15) を例にすれば, 「使役者 (X)」は“妈妈” (=NP<sub>[X]</sub>), 「遂行者 (Y)」は“孩子” (=NP<sub>[Y]</sub>), 「行為 (Z)」は“(孩子) 去买菜” (=VP<sub>[Z]</sub>) となる。

(15) 妈妈叫孩子去买菜。((10a) 再掲)

“去买菜”という行為は“妈妈”が“孩子”に指示・命令して遂行されるので, X から Y へ移動したと見なせる。この移動は文の線形順序において左から右へ向かっている。この移動過程は次の図3のように図示できる。

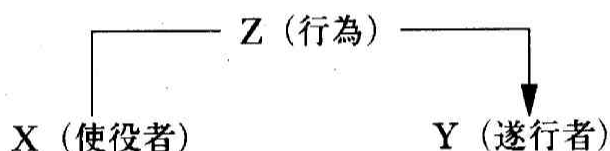


図3

よって, 「使役」が表す「行為 (Z)」の移動過程は「授与」が表す「事物 (C)」の移動過程と相似であると言える。つまり「使役」は広い意味における「授与」である。

次に「処置」について考える。“把”が表す「処置」は「誰かが何かに（ある行為による）処置をもたらす」という意味であり, やはり「処置者 (X')」, 「処置対象 (Y')」, 「出来事 (Z')」の間の三項関係を表すと言える。(16) を例にすると, 「処置者 (X')」は“妈妈” (=NP<sub>[X]</sub>), 「処置対象 (Y')」は“衣服” (=NP<sub>[Y]</sub>), 「出来事 (Z')」は“(妈妈) 洗 (衣服), (衣服) 干净” (=VP<sub>[Z]</sub>) となる。

(16) 妈妈把衣服都洗干净了。((11a) 再掲)

“洗干净”という「出来事」は“妈妈”によって“衣服”にもたらされた「処置 (洗ってきれいにする)」である。したがって, Z' は X' から Y' へ移動したと見なせる。この移動も文の線形順序において左から右へ向かうものであり, 次の図4のように図示できる。

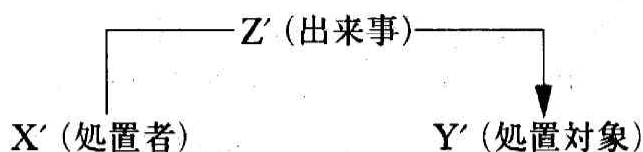


図4

ゆえに「処置」が表す「出来事(Z')」の移動過程も「授与」が表す「事物(C)」の移動過程の相似であると言える。つまり「処置」も広い意味では「授与」である。

最後に「受身」について考える。「受身」は「誰かの行為によって、あるいは何かの原因によって誰か(何か)が被害(や迷惑や影響)を蒙る」という事態について述べるものである。これもまた「被害者(X'')」,「加害者(Y'')」,「出来事(Z'')」の三つの間に成り立つ三項関係であるということになる。(17)で言えば,「被害者(X'')」は“他”(=NP<sub>[x]</sub>),「加害者(Y'')」は“小王”(=NP<sub>[y]</sub>),被害の内容を表す「出来事(Z'')」は“(小王)打了(他)”(=VP<sub>[z]</sub>)である。

(17) 他被小王打了。((12a)再掲)

“打”が表す「被害」を含む「出来事」は“他”が“小王”から蒙るので、Z''はY''からX''へ移動したと言える。この移動は文の線形順序において右から左へ向かうものである。それは次の図5のように図示できる。

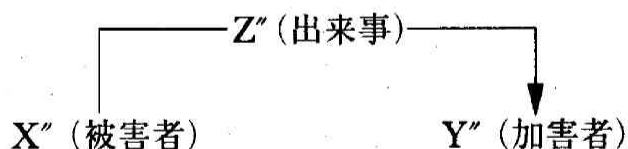


図5

よって,「受身」が表す「出来事(Z'')」の移動過程は「取得」が表す「事物(C')」の移動過程と相似であると言える。つまり「受身」は広い意味での「取得」である。

かくして,二重目的語構文の「授与」と「取得」はヴォイス構文の「使役」・「処置」と「受身」との間に一種の相似関係があると言える。

## 5. 命題表記される引数

最後に、引数が個体に対応するものだけでなく命題によって記述されることの妥当性について少しふれておこう。3. で中国語のヴォイス構文を述語論理によって表記した際、第三引数を「去买菜'(孩子)」のような命題によって記述した。LFGの枠組みによる日本語の「される」、「られる」をヒントにした記述であったが、それ以外にもその妥当性を裏付ける事実を提示する。

朱徳熙(1980)は二重目的語構文において、単独の名詞が直接目的語になることを排斥する傾向があり、「数量詞+名詞」構造がもっとも優勢的な地位を占めると指摘している(朱徳熙 1980: 151-152)。この「数量詞+名詞」構造を個体に対応する引数として表記することは一見すると妥当であるように思えるし、議論の便宜上、二重目的語構文の述語論理式を次のように表記した。

(18)a. 送'(他', 我', 一盒糖) ((6a) 再掲)

b. 收'(他', 我', 五块钱) ((7a) 再掲)

しかし、述語論理では本来このような記述は認められない。“一盒糖”の“一盒”や“五块钱”の“五块”は限定語であり、述語論理の記法では、限定修飾された名詞句全体の意味をそのまま引数とすることはできないからである。そこで別のなんらかの形で表記し直す必要がある。“一盒糖(飴一箱)”の意味解釈は「飴が一箱ある」であり、“五块钱(五元のカネ)”の意味解釈は「カネが五元ある」である。かくして、(18a)と(18b)はそれぞれ(19a)と(19b)のように書き換えられる。下線部の第三引数が命題によって記述されていることに注意されたい。

(19)a. 送'(他', 我', 有'(糖', 一盒'))

b. 收'(他', 我', 有'(钱', 五块'))

これにより、引数を命題で記述することは述語論理表記において妥当であるばかりか、述語論理による自然言語の意味記述の可能性を大いに広げているとも言える。

- \* 日本中国語学科第 54 回全国大会 (2004 年 11 月 7 日, 京都大学) で口頭発表したものに加筆・修正した。

#### 注

- 1 ここで言う「ヴォイス」は「使役」, 「処置」, 「受身」を含み, 英語学などで一般的に理解されている「能動態-受動態」を意味する「ヴォイス」より広い概念としてとらえている。
- 2 「受身」を表す“被”の後の名詞句は統語上現れないことがある。
- 3 述語論理では「関数 (functions)」ではなく, 「述語 (predicates)」と呼ばれることが多いが, 言語学で言う「述語」との混乱を避けるため, 「関数」と呼ぶ。また, 「項 (arguments)」も「引数」とした。
- 4 論理式では, 各関数や引数の後に「' (プライム)」を付し, 中国語の単語との区別を明示した。

#### 参考文献

- 郡司隆男 (1987) 『自然言語の文法理論』, 東京: 産業図書。
- 木村英樹 (2000) 「中国語ヴォイスの構造化とカテゴリ化」『中国語学』 No. 247, pp. 19-39。
- 朱德熙 (1980) “与动词“给”相关的句法问题”《现代汉语语法研究》, pp. 151-168, 北京: 商务印书馆。
- 朱德熙 (1982) 《语法讲义》北京: 商务印书馆。